

愛比売

2025（令和7）年度年報



辻町遺跡 4次



新谷森ノ前遺跡 2次



船ヶ谷遺跡 6次



幸の木遺跡

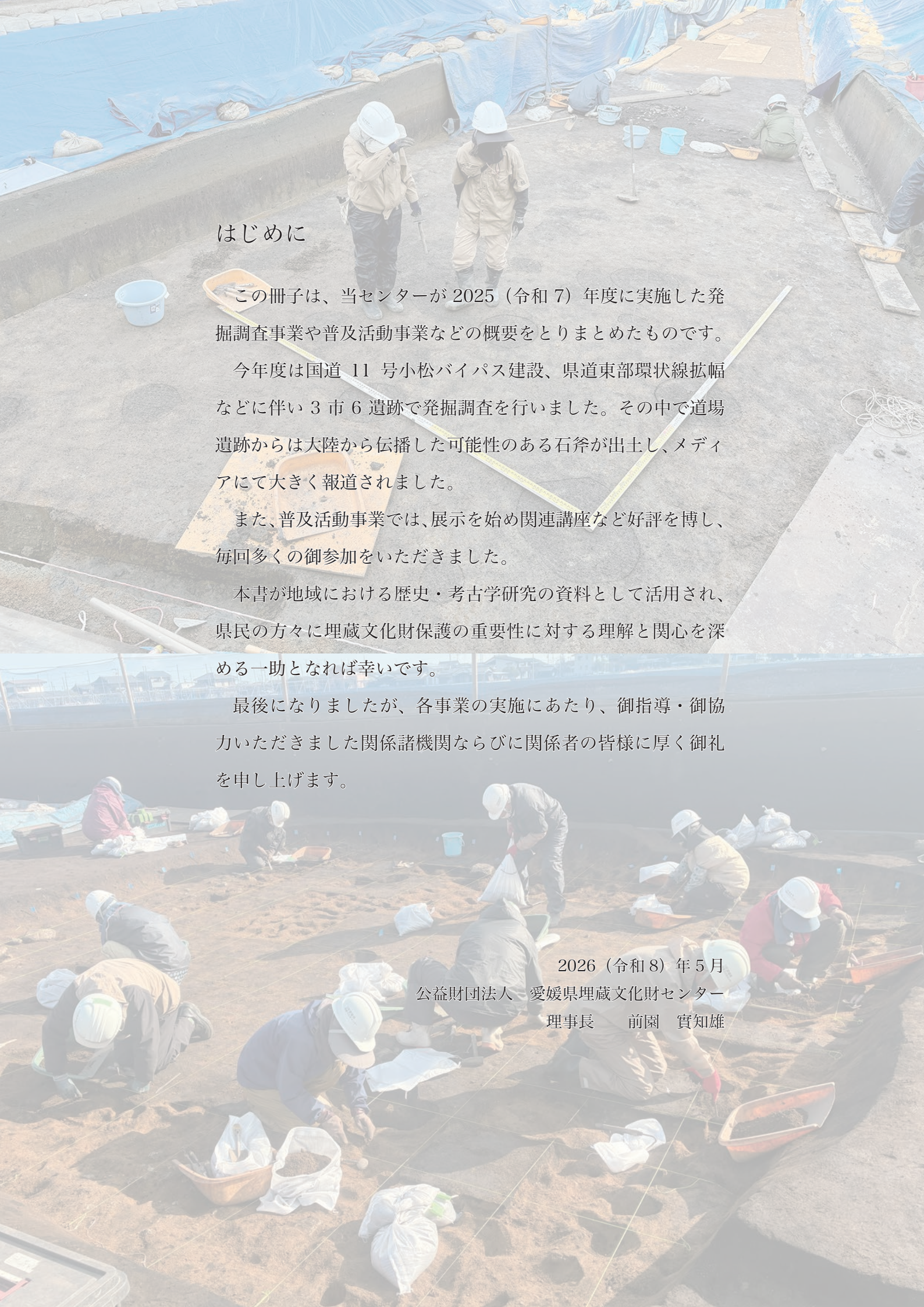


富岡遺跡



道場遺跡

天神の木遺跡



はじめに

この冊子は、当センターが 2025（令和 7）年度に実施した発掘調査事業や普及活動事業などの概要をとりまとめたものです。

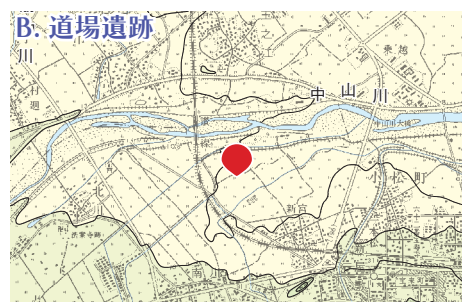
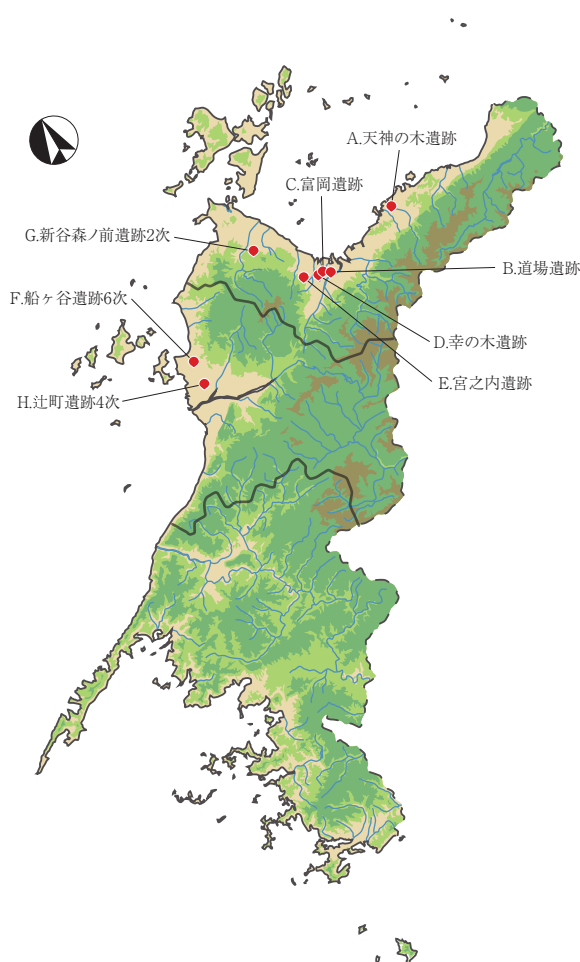
今年度は国道 11 号小松バイパス建設、県道東部環状線拡幅などに伴い 3 市 6 遺跡で発掘調査を行いました。その中で道場遺跡からは大陸から伝播した可能性のある石斧が出土し、メディアにて大きく報道されました。

また、普及活動事業では、展示を始め関連講座など好評を博し、毎回多くの御参加をいただきました。

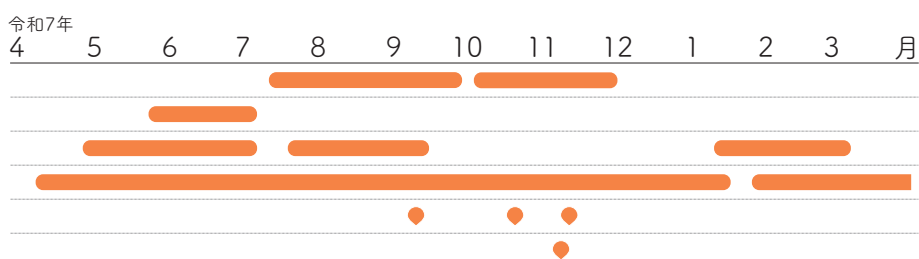
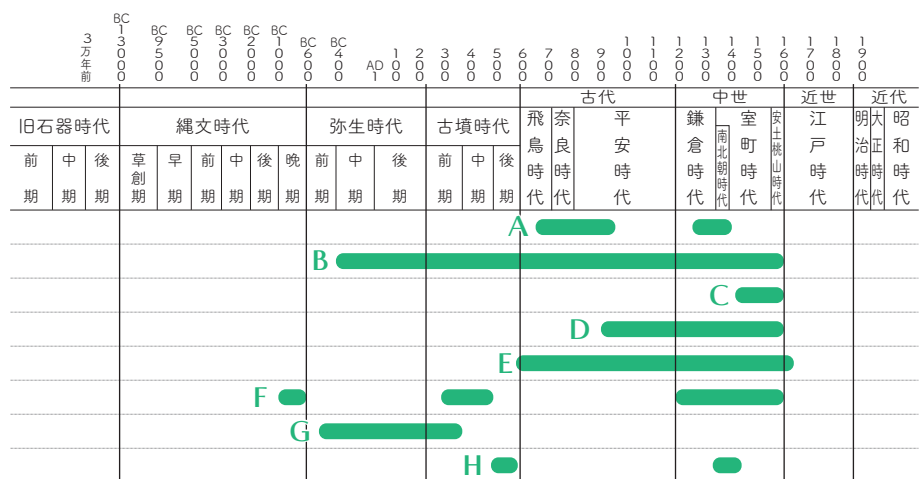
本書が地域における歴史・考古学研究の資料として活用され、県民の方々に埋蔵文化財保護の重要性に対する理解と関心を深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、各事業の実施にあたり、御指導・御協力いただきました関係諸機関ならびに関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

2026（令和 8）年 5 月
公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター
理事長 前園 實知雄



はじめに	02
目次	03
I 発掘調査と整理作業	04
受託した発掘調査と整理作業	04
発掘調査を実施した遺跡	05
A. 天神の木遺跡	05
B. 道場遺跡	07
C. 富岡遺跡	11
D. 幸の木遺跡	12
E. 宮之内遺跡	13
F. 船ヶ谷遺跡 6次	16
報告書を刊行した遺跡	18
G. 新谷森ノ前遺跡 2次	18
H. 辻町遺跡 4次	19
報告書刊行に向けて作業中の遺跡	21
II 普及活動事業	22
古代いよ発掘まつり 速報展	22
共同企画展	24
発掘へんろ展	25
ミニ企画展	26
現地説明会	27
職場体験	27
III その他の事業	28
IV 組織	31



I 発掘調査と整理作業

私たちは考古学的な発掘調査、およびその成果を後世に残す報告書の作成に必要な遺物の接合・図化および各種データの分析などの整理作業をあわせて「埋蔵文化財調査」とよんでいます。

埋蔵文化財は法律により保護されていますが、道路等の開発により破壊されるものについては、開発者からの依頼を受け、記録保存を目的として、地方公共団体または当センターのような団体が埋蔵文化財調査を行います。

ここでは令和7年度に当センターが行った発掘調査および報告書の刊行を含めた整理作業について報告します。

なお、報告書を刊行した遺跡の詳細は、当センターより各図書館等に寄贈している報告書および当センターホームページ掲載のPDFにてご覧いただけます。(http://www.ehime-maibun.or.jp)



受託した発掘調査と整理作業

事業主体 (委託者)	事業名称	遺跡名		契約面積 (㎡)		住所	時期	備考	受託金額 (円)
				発掘調査	整理作業				
国土交通省 (愛媛県)	松山管内 埋蔵文化財 調査	B	道場遺跡	7,960		西条市小松町	弥生時代～中世		380,545,000
			朝倉下経田遺跡 4 次		4,969	今治市朝倉下			
		G	新谷森ノ前遺跡 2 次		2,250	今治市新谷	弥生時代・古墳時代	報告書刊行 (第 208 集)	
			新谷古新谷遺跡 2 次		2,000	今治市新谷			
			新谷赤田遺跡		1,000	今治市新谷			
			石清水八幡神社参道 (遍路道) 五十嵐城ヶ谷遺跡		7,926	今治市五十嵐			
			別名数下遺跡 別名端谷Ⅰ遺跡 2 次 別名端谷Ⅲ遺跡 小泉吹谷西遺跡		11,982 +[2,525]	今治市小泉・ 別名			今治市 アロケーション +[5,844,300]
農林水産省 (西条市)	道前平野 農地整備 事業	C	富岡遺跡	704		西条市周布	中世		192,431,800
		D	幸の木遺跡	592		西条市周布	古代～中世		
		E	宮之内遺跡	2,382		西条市宮之内	古墳時代～近世		
			北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡 南竹ノ下遺跡		総面積 (17,135)	西条市安用			
愛媛県	主要県道 松山東部 環状線	F	船ヶ谷遺跡 6 次	425		松山市安城寺町 ・船ヶ谷町	縄文時代・古墳時代 ・中世		34,000,000
	松山駅 西口 南江戸線	H	辻町遺跡 4 次		5,034	松山市南江戸	古墳時代・中世	報告書刊行 (第 207 集)	8,965,000
	新居浜 警察署庁舎 等整備事業	A	天神の木遺跡	1,169.96		新居浜市久保田町	古代・中世		59,499,000

A. 天神の木遺跡

古代の土坑群と漁網錘

てんじんのきいせき

新居浜警察署庁舎等整備事業

調査期間：令和7年4月～9月 調査面積：1169.96㎡

担当者：沖野実 岡美奈子 中野邦子



小穴内の礫

天神の木遺跡は愛媛県東部（東予地方）の新居浜平野の中央やや北側に所在し、中央構造線南側の黒森山・笹ヶ峰の連なる四国山地石鎚山脈から流下する国領川・尻無川の氾濫原^{はんらん}に形成された微高地上に立地しています。新居浜警察署の庁舎建て替えにともない、庁舎新築予定地で発掘調査が実施されることになりました。

現在の庁舎建築の際に大規模な造成が行われており、旧地表面までの比高差は2.5mにも及びました。幸い天地返しなどは行われていませんでしたが、旧地表面から遺構検出面までが浅いため、造成に伴う土壌改良の影響が中世の包含層まで到達しており、調査は中世の包含層より下部にあたる古代の面で行われることになりました。

主要遺構としては墓2基、土坑41基、小穴37基を数えます。墓は甕を利用した土器棺で、都合3個体の胴部片で構成されていました。内部には何も遺されていなかったものの、土砂が水とともに流入している様子が観察できました。土坑は大半が長方形をしており、長軸が約1.2～1.5mほどのもので、磁北より西へ20度前後



金子山からみた遺跡遠景

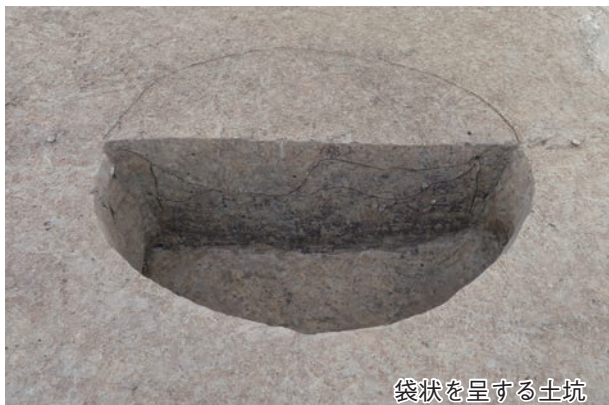
傾くといった特徴があります。中からはほとんど遺物が出土しませんでした。微細な骨片や焼土粒が出土したことから、土坑も墓であった可能性が高いと考えられます。得られた炭化物から放射性炭素年代測定をおこない、7世紀後半から10世紀後半にかけて作られていることがわかりました。また数は少ないですが同一面でも同じような形の中世の土坑も確認しており、こちらも放射性炭素年代測定の結果、13世紀後半から14世紀のものであることがわかりました。これは広島湾の海洋性堆積物から得られたデー



遺構検出南側



遺構検出北側



袋状を呈する土坑



土器棺の検出



古代の土鍾

タと照合すると温暖期にあたり、天神の木遺跡は比較的温暖な気候のときに形成された土坑墓群だということがわかりました。

遺物では特に古代の土鍾^{どすい}が多く出土しました。土鍾^{ぎょもう}は漁網につけられたものとされており、遺跡の眼前に広がる燧灘、あるいは近接する各河川で漁業が行われていた様子がうかがえます。これまで新居浜市域では古代の漁具がまとまって出土した例はなく、当時の人びとの生活を考えるうえで重要な成果となりました。

(沖野)

弥生時代～中世の複合遺跡

1 区完掘状況



層灰岩製柱状片刃石斧

占めていることから、製品を輸入したのではなく、地元の人々が新しい技術を模倣しながら安定的に石器製作を行っていたものと考えられます。また、同時期の遺構から石庖丁が数点出土していることから、前述の石斧で製作していたと考えられる物には鋤・鉞・^{かんがい}灌漑施設などの農耕具・農耕施設があげられます。

また、57号土坑・161・189号小穴から石斧と同時期の大陸由来の可能性のある^{ちゅうぞう}鑄造鉄器も出土しました。これらをX線で検査した結果、鑄造鉄斧の破片を再加工したものである可能性が高いことがわかりました。石斧同様に木材の加工に用いられたものと考えられます。周辺遺跡の調査では大久保遺跡で弥生時代前期末～中期初頭の石斧や鑄造鉄器の再加工品が出土しています。しかし、大久保遺跡の調査では、土坑や竪穴建物などの集落と考えられるような遺構が検出されていないため、大久保遺跡は石斧や鉄



緑泥片岩製石斧

器の搬入された場所で、そこから周辺の集落へ分配された可能性があると考えられ、その消費地の集落の一つが道場遺跡であることが今回の調査で明らかになったことは大きな成果であると言えます。

古代では、1区・2区において1・2号溝が東西方向に並行して検出されました。この溝は道路状遺構の両端の側溝（排水溝）と考えられ、溝の中心間の距離は約3mを測ります。道場遺跡



鑄造鉄器



道路状遺構

から南西に約2.6kmの位置に松ノ元遺跡^{まつのもと}が存在します。この遺跡では、溝の中心間の距離が約6mある8～9世紀頃の古代官道と考えられる道路状遺構が、南北方向に向かって検出されています。1・2号溝は松ノ元遺跡で検出した道路状遺構に直交する方位で設置されていることがわかりました。しかし、出土遺物は10～11世紀頃のものであり、松ノ元遺跡の道路状遺構との直接的な関係性は不明です。8世紀の条里が11世紀まで続く可能性が考えられます。道路状遺構が機能を停止した後は掘立柱建物や土坑など古代の集落域が展開します。



3号掘立柱建物跡

生活に必要な不可欠なものの一つとして井戸があげられます。4区で2基、5区では1基の井戸が検出されています。4区で検出した2号井戸は、遺構検出面からの深さは1.37mを測ります。井戸の構造物として、最下層の基底部より直径約60cmの曲物^{まげもの}が出土し、曲物から上部は円礫・角礫で構成される石組を円筒状に配置していました。石組の内側から東播系須恵器杯や青磁片^{せいじ}などが出土しており、時期は13世紀前半と考えられます。また、曲物は筒状であることから水溜めではなく浄水施設の可能性が考えられます。同じく4区で検出した3号井戸は

2号井戸と同様に石組みの井戸ですが、埋没状況の観察から、石組が一度崩壊しており、一部組み直していたことが考えられます。最下層の基底部より16世紀前半頃の亀山焼^{かめやまやき}の甕が胴部の下半部を意図的に割られた状態で出土しており、2号井戸の曲物と同様に水溜めではなく浄水施設の可能性が考えられます。

5区で検出した1号井戸は木製井組^{いぐみ}であり、出土遺物から12世紀前半頃廃絶した可能性が考えられます。中世において3種類の井戸が使われていたことがわかりました。

来年度は弥生時代前期末～中期初頭の遺構が



4区 2号井戸の曲物



4区 3号井戸 亀山焼甕

密集し、木材加工用の石斧が数多く出土した1区の周辺を調査するため、木製品や石斧について新たな成果が期待されます。

(佐藤)



C. 富岡遺跡

とみおかいせき

河川合流地点に広がる中世後期の集落

道前平野農地整備事業

調査期間：令和7年4月～11月 調査面積：704 m²

担当者：松葉竜司 藤本清志 石貫睦子 佐野祐樹



131号小穴 茶臼出土状況

富岡遺跡は中山川左岸の自然堤防上、小河川の本郷川と崩口川^{くれくち}の合流地点に立地します。今年度は遺跡の西側を中心に調査を行いました。

調査では、中世後期～近世初頭、中世後期、中世後期以前の堆積があること、またこのうち中世後期においては、砂礫・粗砂層が堆積する微高地上に遺構が掘り込まれている状況があきらかとなり、令和6年度に行った遺跡東側の調査成果を追認するかたちとなりました。

検出した遺構は中世後期のもので、15～16世紀の柵列1条、土坑10基、小穴88基、溝9条、自然流路1条を確認しました。

出土遺物は土師質土器や瓦質土器、亀山焼系^{がしつ}瓦質土器、備前焼^{びぜんやき}といった焼きものが主体で、鍋や釜、すり鉢、甕などの日常雑器が多くを占めます。ごく少数ですが、高級品である青磁等の貿易陶磁器も出土しました。

11b区2面目では土師質土器の鍋がまとまった形で出土し、また9区の131号小穴では柱を抜き取った後に茶臼を収めるなど、当時の生活の一端がうかがえます。

北西端に位置する10b区と12区では、河川由来と見られる粘土の堆積が確認され、崩口川と本郷川に隣接していることから、両河川の旧河道をとらえたものと理解されます。このうち、10b区では下駄や漆器碗といった木質遺物が出土しました。漆器碗は内面が赤色、外面が黒色



11b区 遺物出土状況

地で、赤色漆で家紋が表現されていたこともわかりました。



10a区 漆器碗出土状況

昨年度調査した遺跡の東側では、西日本では出土例の少ない青銅製花瓶^{せいどうせいけびょう}をはじめ、茶釜や丸瓦といった寺院関連遺物が出土しており、遺跡の南側に寺院が存在する可能性を想定しました。今年度調査した遺跡の西側ではこういった遺物は出土していないことから、これらは遺跡^{がいぜん}の南側から供給されたものであるという蓋然性が高まったといえるでしょう。

当時の集落の本体は現在の集落がある小高い部分に存在する見通しが高く、今回の調査では、遺跡北西^{えんべん}の縁辺部をとらえたものと評価できます。

(石貫)



遺跡遠景 (写真左が現在の集落)

D. 幸の木遺跡 2 次

さいのきいせき
にじ

愛媛県では珍しい灰釉陶器の小瓶が出土

道前平野農地整備事業

調査期間：令和 7 年 8 月～11 月 調査面積：592 m²

担当者：松葉竜司 藤本清志 佐野祐樹



幸の木遺跡は本郷川の北側に位置しており、平成 7 年度に一般国道 196 号今治小松道路建設に伴って 1 次調査が実施されており、今回の調査は 1 次調査の東側、周敷神社の南側地点にあたります。

1a～1d 区の 4 調査区を設定して調査を行い、土坑 5 基、柱穴・小穴 25 基、流路 4 条、不明遺構 1 基を検出し、須恵器・土師器・灰釉陶器・土師質土器土釜などの遺物が出土しました。これらの遺物は古代から中世のものと考えられます。

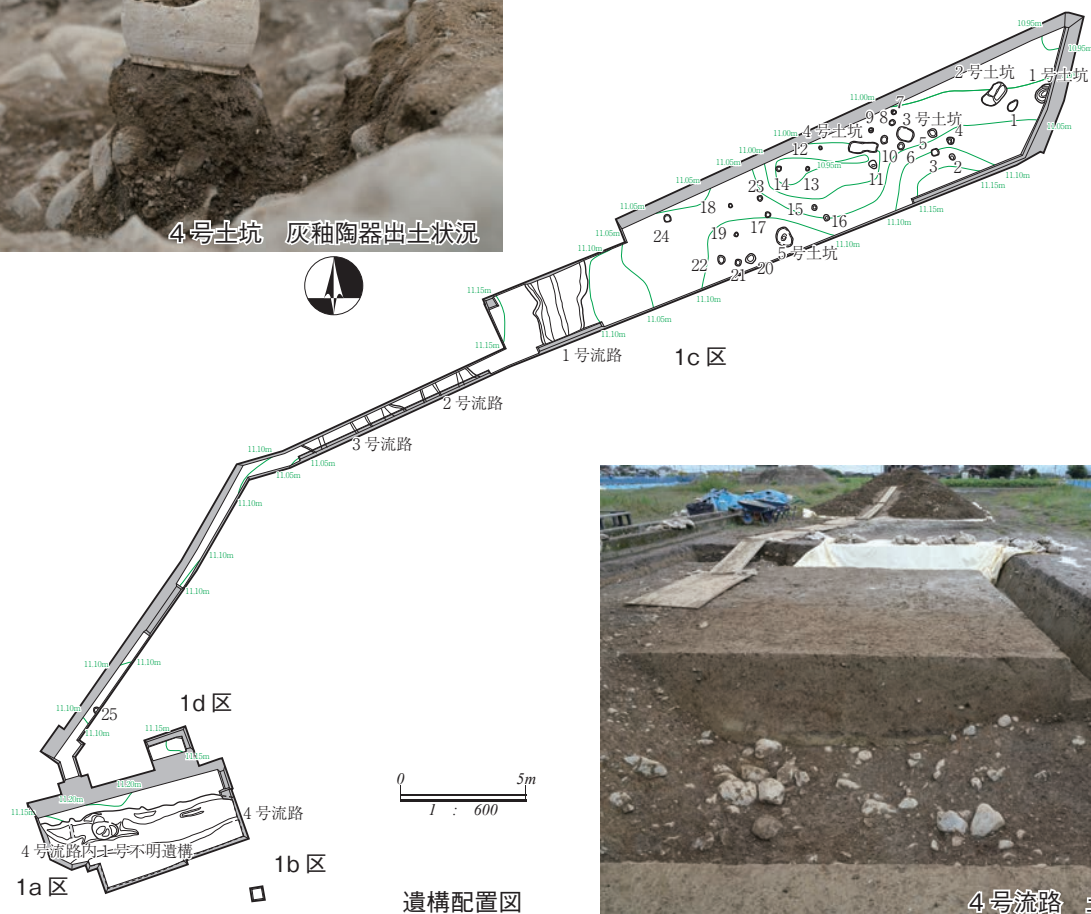
1c 区は北東から南西にかけて細長く設定された調査区で、北東部に土坑や柱穴・小穴が集中

して見られましたが明確な柱穴の並びは確認できませんでした。4 号土坑は 2.3 × 0.9m の長方形を呈しており、南東隅からは灰釉陶器の小瓶^{しょうへい}が出土しました。10 世紀代の美濃産の可能性があり、愛媛県では出土例が少なく注目される遺物です。

1c 区の中央から 1a 区にかけては 4 条の流路を検出しました。1a 区の 4 号流路は東西方向に流れ、長さが約 15m、深さは 70～80cm を測ります。1b 区でも同じ土の堆積が確認されましたが、今回の調査で流路の南岸は確認されませんでした。これらのことから、幅は 10m 以上と考えられます。

1 次調査の成果もあわせると、調査区北側の周敷神社周辺部で古代から中世にかけての集落、南側には流路が形成されていたと想定されます。

(藤本)



E. 宮之内遺跡

塩がもたらした権力と古墳

みやのうちいせき

道前平野農地整備事業

調査期間：令和7年4月～令和8年3月 調査面積：2,382 m²

担当者：増田晴美 佐野祐樹 岡本真治



宮之内遺跡は道前平野の北側、高縄山系ひがしさんぼうがもり東三方ヶ森に水源をもつ大明神川によって形成された北側の扇状地上に立地しています。

今年度は遺跡東側(6b・6d区)と、南側(3c・8a～8c区)で発掘調査を実施し、古墳時代後期から近世初頭までの遺構・遺物が見つっています。

古墳時代後期では、6世紀末～7世紀前半の竪穴建物7棟・古墳1基を確認しました。3c区で検出した11号竪穴建物は一辺が約7.5mで大型の方形の建物です。内側の壁際では多数の小穴を検出しました。これらは板壁の固定や垂木たるきを支えるための杭穴と考えられます。また、床面は中央部分を除いて黒色土が薄く敷き詰められていました。土を除去すると、竪穴を掘削する際の工具痕とみられる多数の小さな凸凹が見つかりました。柱穴と黒色土の新旧関係やカマドの土層を観察すると①柱を設置→②黒色土で床の凸凹を平滑化→カマドを設置の順序で整備したことがわかります。遺物は、須恵器杯身・土師器甕・製塩土器・鉄製品などが出土しています。中でも製塩土器は、海水を煮詰めて粗塩を作る容器でボウルのような形状をしているとみられ、11号竪穴建物は製塩が行われたあるいは周辺から持ち込まれた塩の保管場所の可能性を示しています。塩の生産や流通の管理は、大きな権力を生み出すことから、周辺一帯の支配者層の存在が想定できます。

そのような中で、6d区において古墳を確認しました。調査地点は大明神川の自然堤防であったようで、中央部が尾根状の微高地となっており古墳はその先端付近に構築されていました。墳丘は残存していませんでしたが、石室の一部と周溝しゅうこうを確認することができました。周溝底部の直径から8m程度の円墳であったことがわか



11号竪穴建物の床に敷かれた黒色土



11号竪穴建物の工具痕



古墳検出状況



古墳礫床検出状況

ります。石室の規模は $2.8 \times 1.5\text{m}$ で、南西側に開口部を設けた横穴式石室を採用していました。床面では $2 \sim 10\text{cm}$ の礫を敷いた^{れきしょう}礫床を検出しました。礫床は上下に分層されること、礫の除去後に^{じかん}耳環が出土したこと、最低3回の埋葬が行われたと考えられます。埋葬者は古墳の大きさや副葬品から支配者層の成員、11号竪穴建物と関係する人物を想定しています。

また、古墳のすぐ西側では6号竪穴建物を検出しました。出土遺物から古墳と同時代の建物とみられましたが、日常生活を営む場所に非日常空間である古墳が存在することには違和感が



古墳の周溝から出土した須恵器

あります。7世紀前半は、当遺跡においてこれまでの集落の構成が変化する時期と一致することから、古墳の機能が停止した後に遺跡東側が居住域へと転換したと考えられます。

古代では、3c区で掘立柱建物を確認しました。9号・25号掘立柱建物は相対的に規模・柱穴が大型で一般的な建物とは異なるようです。出土



9号・25号掘立柱建物



3号掘立柱建物 柱痕跡のある柱穴

遺物が少量であることから詳しい時期は不明ですが、7世紀前半から8世紀にかけての遺構と考えられます。加えて周辺から赤色塗彩土師器せきしよくとさいが出土し、官衙かんが関連施設である可能性が高まってきました。これらの大型掘立柱建物は北側及び東側へ展開していく様相をみせています。西側や南側では小穴が集中する場所や反対に遺構密度が低い場所が存在します。この状況は、集落内の構成を反映しているものと考えられますが、建物の具体的な配置や機能は不明で今後の課題と言えます。

中世では、3c区・6d区で土壙墓や甕棺墓を検出しました。277号土壙墓には、ずいかそうちょうはちりょうきょう瑞花双鳥八稜鏡が埋納されていました。詳しい年代は不明ですが、文様から平安時代後期以降



に製作された可能性があります。しかし土坑からはより後世の土器が出土しているため、一定期間の伝世を経て墓壙に納められたと考えられます。また、鉄刀が埋納された276号土壙墓や土師質土器の杯と人骨片が納められた1480号小穴などが近接して見つかり、一帯が墓域であったことが判明しました。さらに15～16世紀段階では、遺跡南側にも墓域が形成されるようになります。溝で居住域と区切られた墓所と居住域と墓と考えられる土坑が共在する状況がみられ、埋葬の多様性がうかがえます。遺跡東側では令和5年度調査で舍利容器しゃりが検出され、居住域とは異なる空間利用が想定されていましたが、今回の成果はそれを裏付けるものとなりました。

(増田)

F. 船ヶ谷遺跡 6 次

古墳を築いた人々と水辺の祭祀

ふねがたに
いせぎらくじ

東部環状線拡幅

調査期間：令和7年10月～令和8年1月 調査面積：425㎡

担当者：石貫睦子 中野邦子 宮城めぐみ



1号土坑 据え置かれた3つの甕

船ヶ谷遺跡は、松山平野の北部、安城寺町と船ヶ谷町に位置します。三津浜を発して伊予市に至る、東部環状線の拡幅工事に先立って調査を行いました。石手川によって形成された扇状地の北に広がる沖積低地上に立地し、現在の標高は約7mほどで、北へ3.4km、西へ2.6km行くと海岸線に出ます。遺跡の東側を、石手川の支流である久万川と大川が堀江に向かって北流しています。遺跡のすぐ西方には標高260mの経ヶ森^{きょうがもり}を最高所とする太山寺山塊、1.5km東方には高縄山系が控えています。

今回の調査では、A区とB区を調査し、縄文時代～中世までの遺構や遺物を検出しました。

A区は縄文時代の堰が見つかった40年前の1次調査地点の西隣で、人為的な掘り込みは検出されませんでした。縄文時代後晩期の土器や石器が出土しました。

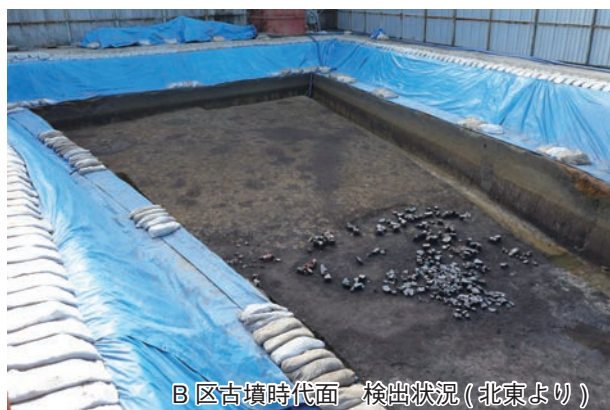
B区では西側の丘陵から続く広い谷間が検出され、古墳時代の遺跡の広がりが確認されました。現況の工場建設時の盛り土が施されていますが、旧地形は南から北へ下がっていくようで、谷の南岸が検出されています。

この谷の落ちぎわでは、古墳時代中期、5世紀の終わりごろの土器がたくさん出土しました(6号性格不明遺構)。元は完全な形だった土器が複数その場で割れている様子が見てとれることから、人為的に置かれたもの、つまり祭祀に使われたものであると解釈されます。土器には、土師器と須恵器とがあります。水を溜めたりする須恵器の甕が多く、煮炊きをする土師器の甕や、食べ物を捧げる高杯なども見受けられます。

B区の南側、谷の陸にあたる部分では、少し^{さかのぼ}遡った古墳時代前期(4世紀)ごろの遺構が検出されました。中でも平面プランが60～80cm前後の



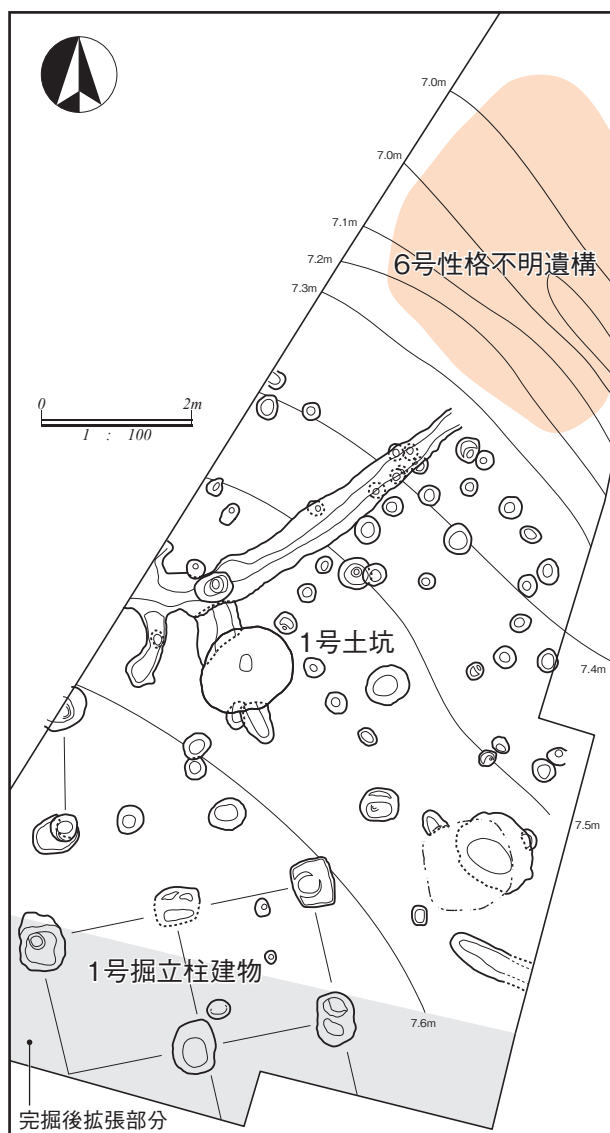
西側丘陵から調査地を望む



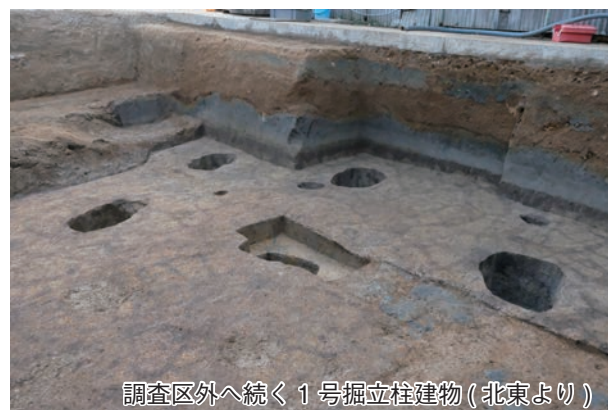
B区古墳時代面 発掘状況(北東より)

隅丸方形を呈する柱穴は、^{そうぼしら}総柱の掘立柱建物を構成するもので、その大きさは少なくとも一辺3.6mに復元できます。狭い調査範囲のため全体形は不明ではありますが、調査区の南側へ続く可能性が非常に高いと考えられます。

また1号土坑からは、古墳時代前期ごろの土



B区遺構配置図(部分)



調査区外へ続く1号掘立柱建物(北東より)

師器の甕が3点、中央に集まった状態で出土しました。谷の陸部分に掘り込まれたこれらの遺構からは須恵器がほとんど出土していないことから、谷の落ちぎわの祭祀遺構よりも古い時代のものであると考えられます。

遺跡から南西に300mの丘陵上には、5世紀代^{ふねがたにむこうやま}の前方後円墳である船ヶ谷向山古墳があり、その南西には船ヶ谷三ツ石古墳などが後続して築かれています。その麓に展開する集落には古墳を築いた人々が住んでいた可能性が高いといえ、今回、古墳時代の遺跡の広がりが新たに確認されたことは、大きな成果といえるでしょう。

(石貫)



6号性格不明遺構 精査風景

G. 新谷森ノ前遺跡 2 次

にやもりのまえ
いせきにじ

弥生時代中期中葉から古墳時代前期まで継続する集落

一般国道 196 号今治道路建設

発行年月日：令和 7 年 8 月 調査面積：75,250 m²

担当者：乗松真也 石貫弘泰 首藤久士 山口莉歩 柴田圭子 中野邦子



笠松山方面を望む

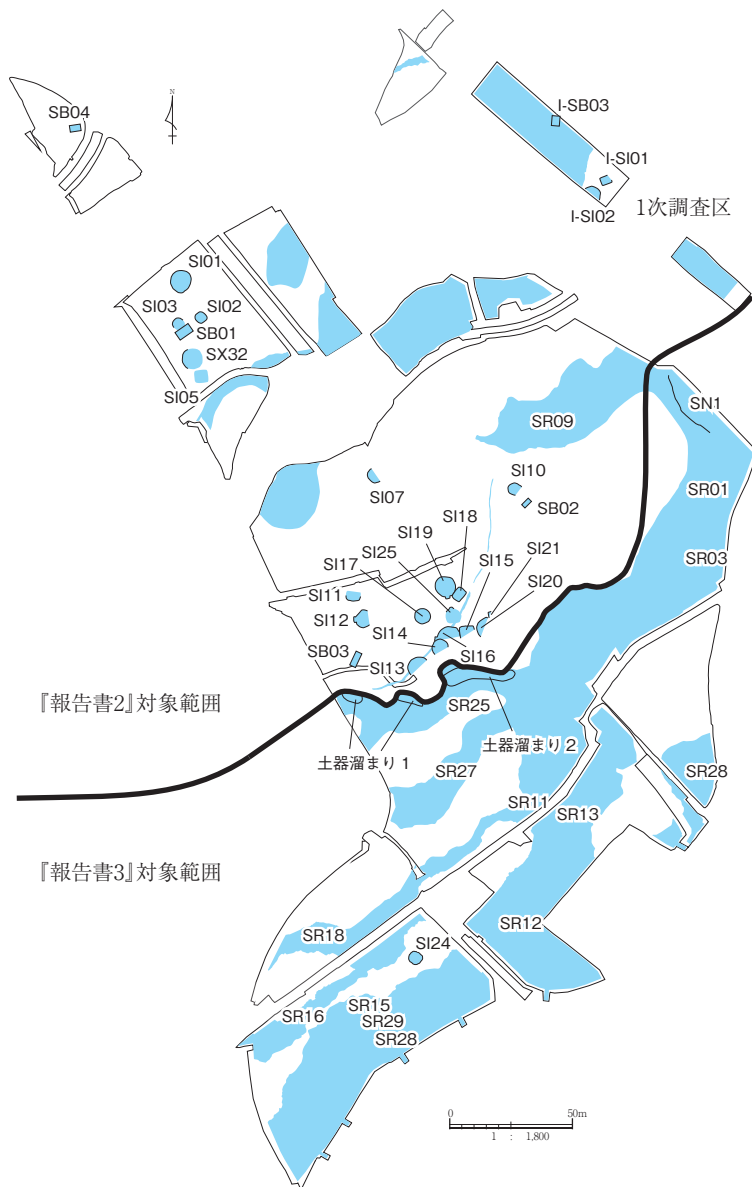
一般国道 196 号今治道路建設に伴って実施した新谷森ノ前遺跡 2 次の 3 冊目の報告書『新谷森ノ前遺跡 2 次 3(縄文時代～古墳時代前期 南部編)』を刊行しました。これまで、『1(木質遺物編)』、『2(縄文時代～古墳時代前期 北部編)』を刊行しており、令和 8 年度に『4(古墳時代後期以降・総括編)』を刊行する予定です。

新谷森ノ前遺跡は今治平野南西部、丘陵部と平野部の境界付近に位置する集落遺跡で、調査地は複数の低位段丘と浅谷を横断しています。低位段丘上に築かれていた竪穴建物や掘立柱建物の検討からは、弥生時代中期中葉から古墳時代前期まで集落が継続していたことがわかりました。低位段丘間の浅谷は、流水、または滞水状態にあったようで、土器や石器などとともに製作途中のものを含む多量の木質遺物が出土しています。このため、弥生時代から古墳時代前期の新谷森ノ前遺跡は木器の製作や管理に関わり続けていたと考えられます。

弥生時代中期中葉～後葉には九州北東部産の

可能性のある両刃石斧や、朝鮮半島産とみられる板状鉄斧などが出土しており、この時期は主に西方との交流が行われていたようです。後期前葉～中葉は集落がもっとも大きくなる時期で、鍛冶炉の導入や龍の絵画土器の使用が認められます。後期後葉は集落規模が小さくなりますが、弥生時代終末期～古墳時代前期には再び規模が拡大します。出土した土器からは、弥生時代終末期～古墳時代前期に近畿地方や岡山平野、山陰地方と交流していたことが推測されます。

(乗松)



新谷森ノ前遺跡全体図



板状鉄斧

H. 辻町遺跡 4 次

みえてきた古墳と中世のムラ

都市計画道路松山駅西口南江戸線

発行年月日：令和 8 年 2 月 調査面積：5,034 m²

担当者：石貫睦子 宮城めぐみ

つじ まち い せ き
よ じ



東海地方に特有の甕

都市計画道路松山駅西口南江戸線の建設に伴い、令和 3 年度から令和 6 年度の間、2 年と 5 ヶ月をかけて調査を行い、報告書を令和 8 年 2 月に刊行しました。

辻町遺跡は松山平野のほぼ中央、旧宮前川の氾濫原に立地し、自然堤防である微高地と低地とが複雑に入り組んだ旧地形を復元することができます。

調査では、縄文時代から近世までの遺物が出土し、遺跡が面的に確認されたのは古墳時代と中世の時代です。

古墳時代では、8 棟の竪穴建物が検出され、5 世紀の終わり頃の遺跡であることがわかりました。竪穴建物はいずれも西側の壁にカマドを付設しています。カマドや周辺の床面から土器が出土する竪穴建物が多く、建物を廃絶する際の祭祀と解釈されます。竪穴建物のうち、8 号竪



2号竪穴建物 遺物出土状況

穴建物は一辺が 7.0m とひとときわ大きく、最高所に立地します。他の竪穴建物に比べてカマドの使用痕跡が希薄であることから、日常用ではない施設である可能性が想定されます。

遺跡の南東側は微高地から低地へ移行していき、湿地状の谷が検出されました。その谷の落ちぎわでは、土師器の甕や須恵器の高杯をはじめとする土器が多数出土しました。摩滅のないほとんど元の形をとどめた状態であることから、

意図的に並べられたものと判断されます。谷の岸辺に沿って土器が整然と配置された様子は、水辺で祭祀を行った光景を想起させます。胴部に穿孔が確認された須恵器の広口壺からは、祭祀のために器物をわざと壊し、使えないようにするという意図が窺えます。土器は在地のものばかりですが、伊予では珍しい東海地方特有の甕も 1 点だけ出土しました。土器の他にも、石製の紡錘車(糸紡ぎの道具)や、建築部材や農具



3号性格不明遺構 土器・木製品出土状況



胴部に穿孔をほどこした須恵器の壺

といった木製品も出土しました。

中世では、13世紀ごろから居住域として利用されるようになります。夥しい数の柱穴が見つかったほか、ごみ穴や井戸といった生活感のある遺構も見つかっています。85号土坑では、炭化物が縞状に堆積しており、廃棄物の焼却をくり返したものと考えられます。

地鎮行為も盛んで、12世紀～15世紀の間に、



85号土坑 炭化物の堆積と投棄された遺物

白磁碗や土師器の杯などを埋納した遺構が19例確認されました。そして15世紀後半ごろからは、墓が集中的に営まれるようになります。見つかった墓は73基で、ほとんどは身一つで葬られたものですが、7基では遺骸と棺も残っていました。一部の人々は副葬品とともに棺に納められ、手厚く葬られたようです。14世紀頃に比定される91号土坑では、墓域の象徴である石塔の部材が



1050号小穴に埋納された白磁碗



土師器杯が埋納された40号小穴



12号土坑 木棺墓出土状況



91号土坑 石塔出土状況

投棄されており、15世紀後半という集団墓化のタイミングよりは古くなりますが、居住空間から墓地への転換の鍵を握っていると考えられます。

今回の調査では、古墳時代と中世の遺跡を広い範囲でとらえることができました。辻町遺跡の西側丘陵には4世紀から古墳が築かれていますが、山麓の遺跡のことは断片的にしかわかっていなかったため、広範囲にわたって遺跡の様相が判明したことは大きな収穫といえます。また中世の南江戸界隈は、松山平野の中でも当該期の遺跡が数多く見ついている突出した地域であり、一帯の緻密な景観復元を可能とする成果を得ることができたといえます。

(石貫)



遺跡遠景

報告書刊行に向けて作業中の遺跡

報告書刊行に向けての作業を私たちは「整理作業」と呼んでいます。

出土遺物に関して行う作業は、まず水洗いする「洗浄」・出土情報を直接書き込む「^{ちゅうき}注記」・破片をつなぎ合わせて足りないところを^{せっこう}石膏や^{じゅうし}樹脂で補う「接合・復元」・観察を行い図化して報告書に掲載できるようにする「実測・トレース」・「写真撮影」など多岐にわたります。

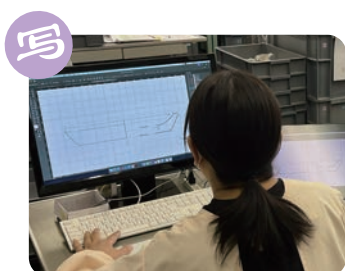
現場から持ち帰った遺構の測量図は全体および個別の遺構ごとにトレースを行います。

これらの基礎的な整理作業を行ったのち、遺物・遺構およびその他の情報をあわせて多元的に分析・検討しながら報告書を作成していきます。

整理作業中の遺跡

- 天神の木遺跡 担当者：沖野 実 岡 美奈子
- 朝倉下経田遺跡4次 担当者：石 貫 弘 泰 宮城めぐみ
- 新谷森ノ前遺跡2次 担当者：乗 松 真 也 首 藤 久 士
柴 田 圭 子
- 新谷古新谷遺跡2次 担当者：松村さを里 藤 本 清 志
土井光一郎 石 貫 睦 子
西 川 真 美 田中いづみ
- 新谷赤田遺跡 担当者：石 貫 弘 泰 中 野 邦 子
- 五十嵐城ヶ谷遺跡・石清水八幡神社参道(遍路道)
担当者：山 口 莉 歩 堀 田 晴 香
- 別名端谷遺跡2次・別名端谷III遺跡・別名藪下遺跡・小泉吹谷西遺跡
担当者：青 木 聡 志 古 谷 里 砂 子
- 北竹ノ下I・II遺跡・南竹ノ下遺跡
担当者：池 尻 伸 吾

遺物洗浄	遺物注記	接合・復元
遺物実測 (土器)	遺物実測 (3D計測)	遺構・遺物 情報確認
デジタル トレース	遺物写真撮影	報告書編集



古代いよ発掘まつり

速報展前期展
「ほったぞな松山2025」

愛媛県埋蔵文化財センター・
松山市立埋蔵文化財センター主催

Ⅱ 普及活動事業

開催 期間	令和7年												令和8年		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月		
						7/12(土)						9/28(日)			
開催 場所	松山市考古館														
見学 者数	2,274名														

報告会

内容	開催日	開催場所	報告者	参加者数
「北吉田馬場遺跡・北井門遺跡9次調査の発掘調査成果」	令和7年7月19日(土)	松山市考古館	藤本清志(愛媛県埋蔵文化財センター)	49名



「古代いよ発掘まつり」は平成24年度より愛媛県教育委員会・松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センターとの連携事業として開催しています。

前期展「ほったぞな松山」は松山市内で前年度発掘調査が行われた遺跡の速報展で、愛媛県埋蔵文化財センターからは北吉田馬場遺跡・北井門遺跡9次調査を展示しました。

北吉田馬場遺跡では、戦時中の松山海軍航空基地関連施設である防空壕を調査しました。愛媛県では発掘調査事例の少ない戦争関連遺跡として、調査写真パネルや土管(陶管)やレンガのほか磁器(統制陶器)などの出土遺物を紹介しました。

北井門遺跡9次調査では弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴建物が見つかり、1次調査地の北側に集落が広がっていることが確認できました。弥生土器や古墳時代の須恵器などが出土しています。

松山市埋蔵文化財センターからは祝谷9号墳の馬形埴輪のほか祝谷大地ヶ田遺跡8次調査の古墳時代須恵器や鉄器などが紹介されました。

(松村)



古代いよ発掘まつり

速報展後期展 「いにしへのえひめ2025」

愛媛県埋蔵文化財センター・
松山市立埋蔵文化財センター主催

開催 期間	令和7年										令和8年		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月
							10/4(土)				11/30(日)		
開催 場所	松山市考古館												
見学 者数	1,309名												

講演会・報告会・講座

内容	開催日	開催場所	講演者・報告者・担当者	参加者数
報告会 ①「宮之内遺跡・富岡遺跡」 ②「石清水八幡神社参道(遍路道)」 ③「五十嵐城ヶ谷遺跡・五十嵐大株遺跡」 ④「朝倉下経田遺跡」	令和7年11月15日(土)	松山市考古館	①増田晴美 ②佐藤直人 ③山口利歩 ④石貫弘泰(愛媛県埋蔵文化財センター)	63名
講演会 「弥生時代水田研究の新展開 —近年の調査・研究成果から—」	令和7年10月11日(土)	松山市考古館	辻康男 (公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター)	48名
親子考古学講座 「遺跡の発掘調査現場見学」	令和7年11月8日(土)	道場遺跡 (西条市小松町)	三好裕之・佐藤直人・岡本芳明・寺嶋信三・ 富山亜紀子(道場遺跡)・松村さを里・石貫弘泰・ 土井光一郎・西川真美・田中いづみ	県内の小中学生と 保護者 29名



後期展「いにしへのえひめ」は松山市以外の県内各地で(公財)愛媛県埋蔵文化財センターが前年度発掘調査を行った遺跡の速報展です。令和7年度の展示では、西条市の宮之内遺跡・富岡遺跡、今治市の五十嵐城ヶ谷遺跡・石清水八幡神社参道、朝倉下経田遺跡4次・五十嵐大株遺跡を紹介し、報告会と講演会のほか親子考古学講座を行いました。

今回の展示では、西条市富岡遺跡で出土した室町時代の青銅製花瓶、五十嵐城ヶ谷遺跡で出土した鎌倉時代の柱状高台付皿など注目される遺物を紹介しました。展示会場では調査担当者が発掘調査や出土品について解説した動画を公開しており、これまでより展示内容が理解しやすいと好評でした。

親子考古学講座は、いま発掘調査をしている遺跡を見学しようという内容で多くの参加申込がありました。「発掘現場を見ることができて楽しかった」、「土器や石器に触れることができ、過去の人々の生活をリアルに感じる事ができた」、「これからどんなものが発掘されるのか楽しみだ」と秋晴れのなか親子で遺跡見学を楽しんでいただきました。(松村)



国府越智郡に在り

～今治平野の伊予国府跡推定地発掘調査の速報～

愛媛県埋蔵文化財センター・
愛媛県生涯学習センター 共催

開催 期間	令和7年												令和8年			月
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
	5/24(土) 7/6(日)															
開催 場所	愛媛県生涯学習センター内 愛媛県人物博物館													見学 者数	1,028名	

学び含えひめ 歴史・考古学講座 (愛媛県生涯学習センターで開催)

講座名	開催日	講演者	参加者数
第1回 ①「伊予国府跡探索事業の現在地」 ②「周辺環境からみた永納山城築城の意義」	令和7年6月8日(日)	①小野隼弥(今治市総合政策部交流振興局文化財課) ②渡邊芳貴(西条市教育委員会)	83名
第2回 「最新の国府研究からみた伊予国府」	令和7年6月22日(日)	大橋泰夫(島根大学名誉教授)	115名
第3回 「律令国家成立前後の今治平野と道後平野—高縄半島を挟んで—」	令和7年6月29日(日)	前園寛知雄(愛媛県埋蔵文化財センター理事長)	119名



平成19年度より愛媛県生涯学習財センターと共同で企画展を開催しており、令和7年度は、今治平野の伊予国府をテーマに展示を行いました。

愛媛県埋蔵文化財センターと今治市教育委員会が共同で行っている伊予国府探索事業をふりかえり、伊予国府の最新の研究成果を紹介しました。関連講座では伊予国府推定地調査の今後の展望や課題、なぜ伊予国府は今治平野につくられたのか、といった県民の方々の関心の高い内容で講演があり、毎回多くの参加者が集まり熱心に聴講されました。

(松村)

四国を掘る

— 墳墓 —

四国地区埋蔵文化財センター
発掘へんろ展実行委員会

開催 期間	令和7年												令和8年		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月		
愛媛会場	松山市考古館												期間	令和7年4月26日(土) ～7月6日(日)	見学者数 3,590名
高知会場	高知県立埋蔵文化財センター												期間	令和7年7月20日(日) ～9月15日(月・祝)	見学者数 1,599名
徳島会場	徳島県立埋蔵文化財総合センター												期間	令和8年1月10日(土) ～3月8日(日)	見学者数 1,225名

展示解説会

内容	開催日	開催場所	解説者	参加者数
「愛媛県の弥生時代から古墳時代の墳墓」	令和7年5月24日(土)	松山市考古館	石貫弘泰(愛媛県埋蔵文化財センター)	48名

令和7年度 四国地区埋蔵文化財センター 発掘へんろ展

四国を掘る

墳墓

松山市考古館
9時～17時
入館は16時半まで
観覧・聴講
ともに無料

令和7年
4月26日(土)
7月6日(日)
休館日・月曜日
4月30日・5月7日
(公休) 5月8日は開館

① 5月24日 10:00～11:30
石貫 弘泰 (公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター)
「愛媛県の弥生時代から古墳時代の墳墓」

② 6月21日 10:00～11:30
山内 英樹 (松山市役所)
「伊予の墳墓～古墳時代 中・後期～」

松山市考古館
〒791-8032 愛媛県松山市南番町2-57 番地6
☎089-923-5777 kyojokan@city-matsuyama.jp



令和7年度の発掘へんろ展では「四国を掘る— 墳墓 —」をテーマとして、発掘調査によって明らかになってきた弥生時代の墓からランドマークとしての古墳への変化の過程を出土遺物から紹介しました。

当センターが発掘調査を実施した遺跡からは、おおくぼ はじきにじゅうこうえんつぼ たかはしぶつし 大久保1号墳の土師器二重口縁壺、高橋仏師1号墳の土師器二重口縁壺、上三谷原古墳の須恵器などを展示しました。なかでも、土壇原8号墳の須恵質円筒埴輪は、これまであまり展示されることのない遺物でしたが、今回の展示で四国各県の方に見ていただくことができました。

(乗松)

ミニ企画展 「宮之内遺跡出土の金銅舍利容器」

令和7年 令和8年
開催期間 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 月
4/7(月) 1/16(金)
開催場所 愛媛県埋蔵文化財センター
1階展示コーナー
見学者数 184名



ミニ企画展 「新谷森ノ前遺跡の絵画土器」

令和7年 令和8年
開催期間 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 月
1/26(月) 1/26(月)
開催場所 愛媛県埋蔵文化財センター
1階展示コーナー
見学者数 28名 (～3/31)



現地説明会

遺跡名	開催日	開催場所	参加者数
道場遺跡 現地説明会	令和7年11月9日(日)	道場遺跡 (西条市小松町)	100名



「職場体験」

開催日	参加者数	開催場所	担当者
令和7年 9月10・11日(水・木)	3名 (松前町立岡田中学校)	愛媛県 埋蔵文化財センター	松村さを里
令和7年 10月21・22日(火・水)	2名 (松前町立松前中学校)	愛媛県 埋蔵文化財センター	松村さを里 沖野 実 西川 真美 岡美奈子
令和7年 11月12・13日(水・木)	2名 (松山市立南第二中学校)	愛媛県 埋蔵文化財センター	松村さを里 沖野 実 岡 美奈子



Ⅲ その他の事業

1. 出版物等への資料提供

提供資料	提供先	掲載物
原稿執筆「宮之内遺跡に納地された舍利容器」松葉竜司	愛媛県歴史文化博物館	令和7年度愛媛県歴史文化博物館特別展図録『伊予の経塚名品展－堂ヶ谷経塚と松浜経塚－』2026年2月発行
宮之内遺跡：金銅製舍利容器写真10点	松葉竜司 (京都府立大学文化遺産 叢書への寄稿)	「日本列島初期仏教受容史の再構築」 2026年3月発行

2. 展示会等への資料提供

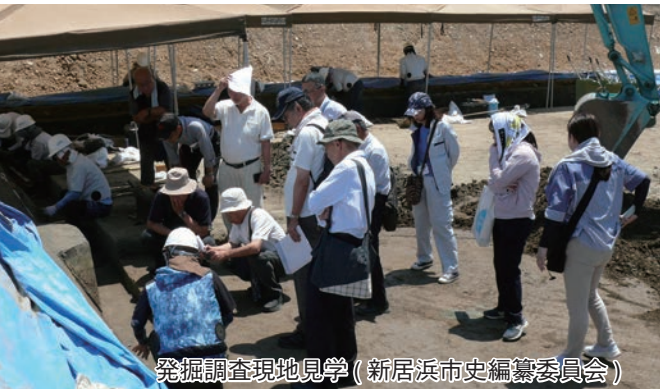
提供資料	提供先	掲載物
大久保1号墳：全景写真1点 八堂山遺跡：1号溝完掘状況写真1点・出土遺物写真23点	西条市考古歴史館	西条市考古歴史館常設展示でのパネル掲示
宮之内遺跡：金銅製舍利容器2点・金銅製舍利容器レプリカ1点 動画「西条市宮之内遺跡と金銅製舍利容器」1点 出土舍利容器ほか写真10点	愛媛県歴史文化博物館	令和7年度特別展「伊予の経塚名品展－堂ヶ谷経塚と松浜経塚－」 資料・写真パネル展示、動画放映、展示に関わる印刷物・ホームページ・Instagram等掲載

3. 調査研究に関する資料提供

提供資料	提供先	目的
湯築城跡：出土遺物32点	愛媛県教育委員会	出土文化財の3Dデータ

4. 資料見学等の受け入れ

見学資料・目的	主体団体・講座など	実施年月日	人数	実施場所(対応)
発掘調査現場の見学 (天神の木遺跡)	新居浜市史編集委員会	令和7年7月24日(木)	13名	発掘調査現場 (沖野実・岡美奈子・中野邦子)
センターの施設、作業の見学	令和7年度 「西条市考古歴史館考古学講座」 (西条市考古歴史館)	令和7年9月10日(水)	20名	愛媛県埋蔵文化財センター 衣山事務所(首藤久士)
発掘調査現場の見学 (船ヶ谷遺跡)	船ヶ谷町内会	令和7年12月22日(月)	8名	発掘調査現場 (石貫睦子・中野邦子・ 宮城めぐみ)
センターの施設、作業の見学	愛媛大学法文学部集中講義 博物館資料論 (担当：幸泉満夫准教授)	令和7年12月26日(金)	35名	愛媛県埋蔵文化財センター 衣山事務所 研修室 (沖野実・首藤久士)
センターの施設、作業の見学	愛媛大学埋蔵文化財調査室	令和8年1月13日(火)	5名	愛媛県埋蔵文化財センター 衣山事務所 研修室 (乗松真也)



発掘調査現地見学(新居浜市史編集委員会)



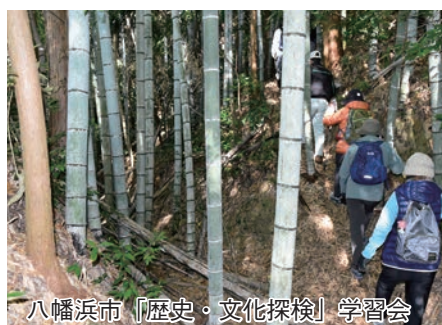
発掘調査現地見学(船ヶ谷町内会)

5. 講演・講座等への職員派遣など

派遣内容	主催	実施場所	実施年月日	内容・対応職員
シンポジウム「KAIZOKU を未来へ！」	今治市	今治市 総合福祉センター 「愛らんど今治」	令和7年6月7日(土)	「国指定史跡能島城跡～現代に活かし、未来へとつなぐ～」 シンポジウムパネリスト：柴田圭子
愛媛新聞カルチャースクール 「楽しく考古学―入門編―」	愛媛新聞社	愛媛県 埋蔵文化財センター	令和7年6月14日(土)	「愛媛県の弥生時代～古墳時代の墳墓」石貫弘泰
		愛媛県 生涯学習センター	令和7年7月5日(土)	「国府越智郡にあり～今治平野の伊予国府跡推定地発掘調査の速報～」 展示解説：松村さを里
		松山市考古館	令和7年9月13日(土)	「松山外環状道路の発掘調査 北井門遺跡9次調査・北吉田馬場遺跡」 藤本清志
			令和7年11月8日(土)	「宮之内遺跡・富岡遺跡の調査成果」 増田晴美
令和7年度コミュニティカレッジ 「愛媛の埋蔵文化財講座」	愛媛県 生涯学習センター	愛媛県 生涯学習センター	令和7年8月19日(火)	「愛媛県東予地域の弥生時代の竪穴建物」佐藤直人
			令和7年12月2日(火)	「愛媛県における押型文土器の様相」 池尻伸吾
令和7年度 町内埋蔵文化財地域の特色ある埋蔵文化財活用事業に係る関連講演会	与論町教育委員会	ゆんぬ体験館 (沖縄県)	令和7年9月21日(日)	「陶磁器からみた与論城跡と今帰仁城跡」柴田圭子
令和7年度 「西条市考古歴史館考古学講座」	西条市考古歴史館	西条市考古歴史館	令和7年11月16日(日)	「富岡遺跡と出土青銅製花瓶をめぐって～中世寺院・西迎寺との関わりから～」松葉竜司
令和7年度 紀伊風土記の丘休館記念秋季特別展関連講演会 「古墳時代の海をめぐる交流の諸相」	和歌山県立 紀伊風土記の丘	和歌山県立 紀伊風土記の丘	令和7年10月12日(日)	「瀬戸内の漁具からみた弥生～古墳時代の交流」乗松真也
八幡浜市「歴史・文化探検」学習会	八幡浜市教育委員会	八幡浜市 松柏・南裏方面	令和7年12月6日(土)	踏査：藤本清志
2025年度「湯築城歴史塾」	愛媛県立道後公園 湯築城資料館	松山市立 子規記念博物館	令和8年1月31日(土)	「外堀と外堀土塁一発掘調査成果から築造の意義を考察する」 柴田圭子
2025年度「湯築城歴史塾」(番外編)	愛媛県立道後公園 湯築城資料館	湯築城跡	令和8年3月28日(土)	「春のサクラサク 湯築城跡を歩こう」柴田圭子
令和7年度「今帰仁村歴史文化講座」	和泊町企画課 (沖縄県)	和泊中学校 あかね文化ホール(沖縄県)	令和8年2月14日(土)	「出土陶磁器からみた今帰仁グスク」 柴田圭子
お仕事フェスタ 2026	学校法人 河原学園	アイテムえひめ 大展示場	令和8年3月7日(土) ・8日(日)	職業紹介：乗松真也・青木聡志 柴田圭子
令和7年度 愛媛県歴史文化博物館 「歴史文化講座」	愛媛県 歴史文化博物館	愛媛県 歴史文化博物館	令和8年3月15日(日)	「西条市宮之内遺跡出土金銅製舍利容器をめぐって」松葉竜司
沖縄県立芸術大学令和7年度特別講座	沖縄県立芸術大学	沖縄県立芸術大学	令和8年3月23日(月)	「琉球出土 龍泉窯青瓷研究の魅力と意義」柴田圭子



西条市考古歴史館考古学講座



八幡浜市「歴史・文化探検」学習会



お仕事フェスタ 2026

6. 職員の委員等就任状況

職員名	委員名	期間
松村さを里	今治市 文化財保存活用地域計画策定協議会委員	第1回協議会（令和6年11月21日）から計画策定まで （令和6年度～令和8年度の約3年間）
柴田圭子	松山市文化財保護審議会委員	令和7年4月1日～令和9年3月31日
	今治市文化財保護審議会委員	令和2年11月1日～令和8年10月31日
	砥部町文化財保護審議会委員	令和7年4月1日～令和9年3月31日
	史跡能島城跡調査・整備検討委員会委員	令和7年4月1日～令和8年3月31日

7. 各種団体への職員派遣など

内容（依頼団体）	派遣先	日時	対応職員
史跡興道寺廃寺跡整備検討会議への参画 （美浜町教育委員会）	福井県美浜町歴史文化館	令和7年8月3日（日） 令和8年2月28日（土）	松葉竜司
科学研究費基盤 C「16世紀における喫茶文化史の再構築―御成・茶の湯を中心に」 （代表：三笠景子）（東京国立博物館）	福井県立 一乗谷朝倉氏遺跡博物館	令和7年10月4日（土）～6日（月）	柴田圭子
「愛媛古墳時代須恵器研究会」 （代表：三吉秀充） （愛媛大学埋蔵文化財調査室）への協力	愛媛大学ほか	令和7年11月4日（火） ～令和8年3月31日（火）	乗松真也・松村さを里 石貫弘泰・石貫睦子
太田城出土の陶磁器に関する指導 （内子町教育委員会）	愛媛大学	令和7年11月18日（火）	柴田圭子
科学研究費基盤 A「琉球王国の海上交通の研究―沈没船、港湾、文献資料、絵画・地図資料の総合研究―」（代表：森達也） （沖縄県立芸術大学）	運天港遺跡 （沖縄県）	令和7年12月26日（金）～28日（日）	柴田圭子
馬場ノナル遺跡の試掘調査現地指導 （大洲市教育委員会）	馬場ノナル遺跡 （大洲市）	令和8年1月14日（水）	沖野実
科学研究費基盤 B「考古学および地質学による弥生時代における青色片岩製石器原産地に関する研究」（代表：中村豊）（立命館大学）	徳島大学総合科学部ほか	令和8年2月28日（土）・3月1日（日）	乗松真也
史跡河後森城跡ほか町内遺跡出土の陶磁器に関する指導（松野町教育委員会）	松野町 埋蔵文化財センター	令和8年3月3日（火）	柴田圭子
松山大学経済学部講義 「地域史（1）」・「地域史（2）」非常勤講師 （松山大学）	松山大学	令和7年度通年（前期・後期） 毎週木曜日4限	乗松真也

8. 図書資料の収集・登録・貸し出し

関係団体が発行する報告書・埋蔵文化財関連書籍等を収集し、登録・保管（令和7年度新規登録図書数：1,514冊・総登録数：84,427冊）のうえ、大学など関係者等への貸出を行った。

9. ホームページ・X(旧 Twitter)・YouTube による情報発信

公式ホームページ、令和3年度より運用を開始したX(旧 Twitter)、令和6年度より運用を開始したYouTubeチャンネルアカウントから、業務におけるトピックやエピソード、共催展の告知・報告、関連団体アカウントのリポスト、埋蔵文化財解説・紹介動画等の情報発信を行った。

IV 組織

役員等（令和8年3月末日現在）

理事

理事長	前園 實知雄	奈良芸術短期大学 特任教授・法蓮寺(東温市)住職・奈良県立橿原考古学研究所 特別指導研究員
常務理事	篠原 年克	(公財)愛媛県埋蔵文化財センター 事務局長
理事	栗田 正己	聖カタリナ大学 非常勤講師・元松山東高校長・元県教育委員会文化財担当
	加藤 令史	愛媛新聞社 代表取締役社長 社長執行役員
	梅木 謙一	(公財)松山市文化・スポーツ振興財団 松山市考古館長
	廣田 聡	愛媛県教育委員会 文化財保護課長
監事	宇都宮 欣毅	税理士

評議員

	村上 恭通	愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター長・教授
	岡田 敏彦	愛媛考古学協会 会長
	秋廣 伸二	元愛媛銀行 常務取締役
	足立 一志	松前町教育委員会 教育長
	小山 哲司	愛媛県教育委員会 副教育長

令和7年度職員（令和8年3月末日現在）

事務局長	篠原 年克
------	-------

総務課

総務課長 (事務局長が事務取扱)	篠原 年克
専門事務員 ・担当係長	河野 有美
主任事務員	芳野 伸吾
事務補助員	芝加納 子

調査課

調査第一課長	三好 裕之					
調査第二課長	乗松 真也					
主幹	松村 さを里	松葉 竜司				
専門調査員 ・担当係長	池尻 伸吾					
専門調査員	藤本 清志	石貫 弘泰				
主任調査員	土井 光一郎	沖野 実	首藤 久士	増田 晴美	石貫 睦子	
調査員	山口 莉歩	青木 聡志	佐藤 直人			
囑託調査員	柴田 圭子	西川 真美				
主任調査助手	岡 美奈子	田中 いづみ	富山 亜紀子	寺嶋 信三	岡本 芳明	佐野 祐樹
調査助手	中野 邦子	岡本 真治	古谷 里砂子	宮城 めぐみ	堀田 晴香	

令和7年度に刊行した書籍（調査報告書以外）

- 「紀要愛媛」第21号
- 「愛比売」令和6年度年報



<http://www.ehime-maibun.or.jp>



<https://www.youtube.com/@愛媛県埋蔵文化財センター>



https://x.com/ehime_maibun

え ひ め
愛比売

2025(令和7)年度年報
～発掘調査事業および普及活動事業の記録～

2026(令和8)年5月

編集・発行 公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター
〒791-8025 愛媛県松山市衣山四丁目68番地1
TEL(089)911-0502 FAX(089)911-0508
印刷 岡田印刷株式会社



許諾番号：3008034

愛媛県イメージアップキャラクター
みきやん・ダークみきやんと大型器台